

朝霞キャンパスで過ごした13年を振り返って

人間環境デザイン学科 繁 成 剛

朝霞キャンパスに新設されたライフデザイン学部の教員となって過ごした日々は、私の人生の中で最も多忙で充実していたという実感があります。「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」という芭蕉の名文を座右の銘として、人生は旅だと感じながら振り返ると、実に多くの人や出来事との出会いがありました。様々な分野で活躍されている教員の皆様、本学に入学して卒業するまで彼（彼女）なりに成長していく学生達、支援技術の研究や開発に関わったりハビリテーション関連職や企業の皆様、障害のある方とご家族の皆様との交流を通して、一期一会の貴重な経験をすることができました。

私の専門であるリハビリテーション工学の分野では、プロジェクト研究助成や企業との共同研究によって、車椅子用クッションや感覚統合関連遊具などを研究開発し製品として販売することができました。その成果を毎年欠かさず国内外の学会や研究会で発表できたのも大学に籍を置いている恩恵だといえます。2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援活動にも大学の助成を受けて、学生達と岩手県の大船渡市や陸前高田市の被災地を何度も訪問し、私のデザインした強化段ボール製の座卓、座椅子、整理棚などを避難所や仮設住宅で避難生活をしている住民に寄贈することができました。現地のリハ関連スタッフの協力を得て、被災された住民と学生達が必要な家具を作るワークショップを開催したことは楽しい思い出となっています。2016年の熊本地震の時は、私が所属する日本リハビリテーション工学協会の協力を得て3ヶ所の避難所と仮設住宅で強化段ボールを使って生活に必要な家具を作るワークショップを3回開催することができました。2018年の北海道胆振東部地震の直後に大学の知的財産実用化プログラムの助成をいただき、強化段ボール製ポータブルトイレのモニター調査を実施し、県内の企業と協同で製品化することができました。その成果は2019年8月に東京ビッグサイトで開催された大学見本市イノベーションジャパンで発表させていただきました。調査活動や研究開発に協力いただいた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

最後に大学での教育活動を振り返ってみると、教育者として至らぬところや反省することが多く、自身の能力の限界と教育の難しさを痛感しています。ただ私のゼミに所属して卒業した100名を超える学生の中で、福祉用具や幼児教育に関連する企業に就職し、毎年のように展示会や大学のイベントで元気に活躍している姿を見かけると教員としての冥利に尽きると感じます。結婚して子どもが生まれ親子で大学まで会いに来てくれる卒業生や私の還暦祝いに大勢のOB・OGが集まってくれたことも嬉しい思い出です。

退職後は悠々自適に暮らしたいと思う反面、まだ元気に活動できるうちに支援技術や福祉用具のデザインの分野で社会貢献ができればと考えています。またいつの日か教員の皆様方や本学の卒業生たちに再会できることを楽しみにしています。

